吉備国際大学研究紀要
（医療・自然科学系）
第25号，95－103，2015

中山間地域の高齢者と子どもの暮らしをまもる住民相互の支援体制（第2報）

―学童保育に通う子どもとその親の高齢者との絆を深める交流に対する意識―

澤田　和子，木村　麻紀，岡本さゆり，掛谷　益子，
田中　富子，岡　　和子，太湯　好子

A Mutual Support System for Protecting the Lives of Children and the Elderly in Hilly and Mountainous Areas Ⅱ

－Consciousness of Children in After-School Activities and Their Parents toward Exchanges for Establishing a Bond between the Children and Elderly－

Kazuko Sawada, Maki Kimura, Sayuri Okamoto, Masuko Kakeya,
Tomiko Tanaka, Kazuko Oka, Yoshiko Futoyu

Abstract

This study surveyed 290 children attending after-school activities in districts A and B in City T and their parents, to collect data to develop a foundation for a cooperative environment to nurture children in local communities. The children's questionnaires were designed to illicit responses from a child's perspective on the following issues: (1) basic attributes; (2) enjoyment of after-school activities; (3) their perceived relationships with their family members, including their grandparents; and (4) their ideas about intergenerational exchanges. Questionnaires for their parents included questions such as (1) what time the parent(s) arrived home from their day; (2) concerns about after-school activities; and (3) ideas about children's exchanges with the elderly.

The results from the children's questionnaires indicate that 79.2% of the respondents are in either the first or second grade and 42.1% have grandparents living in their households. Most of them (92%) answered that they like their grandparents and believe that they have good relationships with them. Regardless of them having grandparents living in their homes or not, 88.3% answered that they are happy to have interactions with the elderly.

吉備国際大学保健医療福祉学部
〒716-8508　岡山県高梁市伊賀町8
Kibi International University
8, Iga-machi Takahashi, Okayama, Japan(716-8508)

Moreover, 97.7% of them responded that they enjoy activities involving learning about cultural traditions from the elderly. As a whole, the parents hoped that the after-school activities would provide their children with opportunities for intergenerational exchanges, activities to learn about cultural traditions, and a safe environment for children.

In conclusion, this survey confirms that children would likely enjoy intergenerational exchanges in after-school activities and provides positive indications that family elders may be instrumental in creating a safe environment for nurturing children in local communities.

Key words　: Intergenerational relationship, Children, Parent, Elderly
キーワード　: 世代間交流・子ども・親・高齢者

Ⅰ．はじめに

我が国の少子化や核家族化の進行は，子どもや子育て家庭を取り巻く環境を大きく変化させ，家庭や地域社会における子育てや教育力の低下をもたらしている[1]との指摘がある．

現代の子ども達の置かれている状況を概観すると，子どもの育ちや子育てをめぐる環境の現実は厳しく，核家族化や地域のつながりの希薄化によって，子育てに不安や孤立感を覚える家庭は少なくない[2]．加えて，女性の社会進出を推進する政策とともに働く母親は今後も増加することが推察される．一方，子どもの生活は学校と自宅，習い事の 3 つで構成され，学校と塾に追われ，家庭では一人遊びが中心となり，友人との遊びにおいても，ゲームなどの電子機器の普及から，人間同士の交流は乏しくなっている[3]．中山間地域で高齢化率の高いＴ市においても同様な傾向がみられ，子どもは大人社会のしわ寄せを最も受けていると言える．

少子高齢化が進む中，平成 19 年には文部科学省と厚生労働省は両省の連携と協力により，地域社会の中で放課後や夏休みなどの長期休暇時に，子ども達の安全で健やかな居場所作りを推進し，総合的な放課後児童対策として実施する「放課後子どもプラン」を策定した．

また，平成 26 年には文部科学省が「すべての子どもを対象に，地域の方々の参画を得て，学習や様々な体験・交流活動・スポーツ・文化活動等の機会を提供する取組」[2]を提唱した．

厚生労働省は「保護者が労働等により昼間いない児童に，適切な遊び及び生活の場を提供」することを提唱している．

だが，斎藤は，子どもの生活の現状と課題として，最近，子どもたちの自立心や社会性の欠如等を指摘している[4]．その背景には子どもたちの日常生活の過ごし方などが極めて限られているなど各種の体験不足がある．自然体験や生活体験の不足，そして，依頼心が強く自己中心的な傾向のある子どもは，生活能力，思いやり，人間関係などにおいて弱い傾向があることを指摘している[4]．

「放課後子どもプラン推進事業」の中で，子どもの生活の場を重要視する方向性の大切さを指摘し，子どもの生活の場を豊かにするためには，言うまでもなく地域住民の参加と協力が必要不可欠である．中でも，高齢者との交流は，小学生の共感性の発達に正の影響を及ぼすことや，高齢者との物理的距離が近いほど，高齢者との直接的接触が多く，距離が遠いほど間接的な接触が多くなる．つまり，高齢者に対する心的な新密度を高めることが重要である．日常的な家族での世代間交流が希薄している現代社会において地域に残る伝承的な交流や小学校の総合学習での適度な高齢者との交流は，子どもの社会

適応や高齢者の理解を促すのに有意義であると村山は報告している[5)].

そこで，本研究においては，学童保育を利用している子どもに注目し，小学校低学年の時代から高齢者との遊びや地域文化の継承などの体験をする機会を生活の場に創りだす取り組みができないかと考え，そのための基礎資料を得ることを目的に，子どもの視点，親の視点の両側面から検討することとした.

Ⅱ．研究方法

1．対象者

O 県 T 市 A, B 地区の学童保育に通う子ども 290 人とその親を対象とした．子どもの保護者に研究目的・方法について紙面により説明を行い，協力を得た．質問紙の配布および回収は学童保育の指導員に一任した．結果，子どもは 222 人，親から 187 人から回答を得ることができた．回収率は子ども 76.6%，親 64.4%であった.

分析には, 子どもではすべての質問に無回答であった 6 人を除外した 216 人を有効回答とし，親に関してはすべての質問に無回答であった 1 人を除外した 186 人を対象とした．有効回答率は子ども 97.3%，親 99.5%であった.

2．調査内容

子どもと親に別々に質問紙を作成し調査した.

(1) 子どもの調査

1) 基本属性 : 学年，および学童保育の開始時期.

2) 学童保育について : 学童保育は楽しいかについて「はい」「いいえ」で回答を求めた.

3) 同居家族と，同居している祖父母とのかかわり : 祖父母と遊ぶことがあるか, 祖父母と遊ぶことは楽しいか, 祖父母の手伝いをするか, 祖父母のことは好きかについて「はい」「いいえ」で回答を求めた.

4) 近隣の高齢者とのかかわり : 近隣の高齢者と会話をしたり，遊んだりすることはあるかについて「はい」「いいえ」で回答を求めた.

5) 学童保育に近隣の高齢者が参加することについて : 学童保育に近隣の高齢者が来てくれるとしたら「うれしい」「まあうれしい」「あまりうれしくない」「うれしくない」の 4 件法で回答を求めた.

6) 高齢者との世代間交流について : 高齢者から伝承してもらったりすることについては「うれしい」「まあうれしい」「あまりうれしくない」「うれしくない」の 4 件法で回答を求めた.

(2) 親の調査

1) 基本属性 : 性別，子どもの人数

2) 保護者の帰宅時間について

3) 学童保育について

①学童保育の時間帯（終了時間を含む）についての希望

②学童保育の内容に関する希望

③学童保育を利用していて困っていること

4) 高齢者との交流について

①学童保育に高齢者が関わりを持つことは嬉しいと思うか，また期待することは何か

3．分析方法 :

子どもの属性，学童保育について，家族構成，祖父母とのかかわり，近所の高齢者とのかかわり，近所の高齢者が学童保育に来てくれること，高齢者からの伝承活動については割合で示した．祖父母の有無と近所の高齢者とのかかわりの有無，祖父母の有無と学童保育での高齢者とのかかわりを，祖父母の有無と伝承活動に対する気持ちにつては χ^2 検定を行った．いずれも有意水準は 5%とした．分析には SPSS 21.0 を用いた.

4．調査期間 : 平成 25 年 11 月

5．倫理的配慮

学童保育の指導員に調査研究について説明し，その後

子どもと保護者に指導員を経由して質問紙の配布を依頼し，研究目的・方法について紙面により説明を行った．研究への参加は自由意志であること，途中でも辞退できること，個人のプライバシーを厳守し，個人が特定されることがないように配慮すること，得られたデータは本研究以外に使用しないことを紙面で説明した．調査票は無記名自記式で実施し調査表の提出をもって，本研究への参加に同意を得たこととした．なお，本研究は吉備国際大学倫理委員会の承認を得て行った．

Ⅲ．結果

1．学童保育に通っている子どもの調査結果

(1) 子どもの属性

1 年生 63 人（29.2%），2 年生 55 人（25.5%），3 年生 53 人（24.5%），4 年生 25 人（11.6%），5 年生 15 人（6.9%），6 年生 5 人（2.3%）であった．1 年生～3 年生が全体の 79.2%を占めていた．

学童保育の開始時期は，1 年生からが 195 人，2 年生からが 11 人，3 年生からが 7 人，4 年生からが 1 人, 5 年生からが 1 人で, 6 年生からは 0 人であった．

(2) 学童保育は楽しいか

学童保育は楽しいと答えた子どもは 190 人（88.0%），いいえと答えた子どもは 21 人（9.7%），また, 楽しかったりそうでなかったりが 1 人 (0.4%)，ふつう 2 人（0.9%）であった．次に，学年毎に見ると，1 年生で楽しいと答えた割合は 85.7%，2 年生は 89%, 3 年生は 90.6%, 4 年生は 92.0%, 5 年生は 80.0%, 6 年生は 80.0%であった．

(3) 家族構成と祖父母とのかかわりについて

1) 家族との同居について

祖父母と同居しているは 91 人（42.1%），同居していないが 125 人（57.9%），また両親不在で祖父母との同居は 1 名（1.1%）であった．そのうち父と子どものみの家庭が 7 人（5.6%），母と子どものみの家庭が 20 人（16%）であった．

2) 祖父母との遊び

祖父母と遊ぶことがあると答えた子どもは 169 人（78.6%）であり，ないと回答した子どもは 46 人（21.4%）であった．祖父母との同居の有無と祖父母と遊ぶ機会の有無の関連をみると，有意な差は認められなかったが，祖父母との同居の有無に関係なく，祖父母と遊ぶ機会がある子どもが約 8 割を占めていた（表 1）．祖父母と遊ぶのは楽しいと答えた子どもは 179 人（87.3%）．祖父母との同居の有無と祖父母と遊ぶことが楽しいかについて関連を見ると，有意差は認められなかったものの，祖父母と遊ぶことが楽しいと回答する子どもが約 9 割を占めていた（表 2）．

表 1 祖父母との同居の有無と祖父母と遊ぶ機会の有無　n＝215（無回答　1 人）

単位：人（%）

		祖父母と遊ぶ機会		
		あり	なし	計
祖父母との同居	同居している	73（80.2）	18（19.8）	91（100）
	同居していない	96（77.4）	28（22.6）	124（100）

（p＜0.737）

表 2 祖父母との同居の有無と祖父母と遊ぶことが楽しい　n＝205（無回答　11 人）

単位：人（%）

		祖父母と遊ぶことが楽しいか		
		はい	いいえ	計
祖父母との同居	同居している	75（86.2）	12（13.8）	87（100）
	同居していない	104（88.1）	14（11.9）	118（100）

（p＜0.678）

3）祖父母の手伝い

祖父母の手伝いをすると答えた子どもは 161 人（76.3%），いいえと答えた子どもは 50 人（23.1%）であった．祖父母との同居に関係なく，祖父母の手伝いを 7 割以上の子どもがしていた（表 3）．

4）祖父母への好感度

祖父母は好きと答えた子どもは 204 人（95.8%），いいえと答えた子どもは 9 人（4.2%）であった．祖父母との同居の有無と祖父母が好きかについて関連を見ると，有意差は認められなかったものの，95%を超える子どもは祖父母が好きと回答していた（表 4）．

（4）近隣の高齢者とのかかわり

近所の高齢者とのかかわりがあると答えた子どもは 114 人（52.8%），いいえと答えた子どもは 102 人（47.2%）であった．祖父母と同居の有無と近所の高齢者とのかかわりの関連性についてみてみると，祖父母と同居している子どもは，近所の高齢者とのかかわりが有意に多かった（表 5）．

表 3 祖父母との同居の有無と祖父母の手伝いをすることがあるか　n＝211（無回答　5 人）

単位：人（%）

		祖父母の手伝いをすることがあるか		
		あり	なし	計
祖父母との同居	同居している	75（82.4）	16（17.6）	91（100）
	同居していない	86（71.7）	34（28.3）	120（100）

（p＝0.074）

表 4 祖父母との同居の有無と祖父母とが好きか　n＝213（無回答　3 人）　　単位：人（%）

		祖父母が好きか		
		はい	いいえ	計
祖父母との同居	同居している	86（95.6）	4（4.4）	90（100）
	同居していない	118（95.9）	5（4.1）	123（100）

（p＝1.000）

表 5 祖父母との同居の有無と近所の高齢者とのかかわりの有無　n＝216　単位：人（%）

		近所の高齢者とのかかわり		
		あり	なし	計
祖父母との同居	同居している	59（64.8）	32（35.2）	91（100）
	同居していない	55（44.0）	70（56.0）	125（100）

（p＜0.01）

（5）高齢者とのかかわり

近所の高齢者が学童保育に来てくれるとうれしいと答えた子どもは 85 人（39.9%），まあうれしいと答えた子ども 103 人（48.4%），あまりうれしくないと答えた子どもは 19 人（8.9%），うれしくないと答えた子ども 6 人（2.8%）であった．祖父母との同居の有無と学童保育での高齢者とのかかわりについては有意差は認められなかった．しかし，同居の祖父母の有無にかかわらず，子どもは学童保育での高齢者とのかかわりをうれしいと答えた子どもが 88.3%であった（表 6）．

（6）地域の高齢者との交流

高齢者から伝承活動をしてもらうことにはうれしいと答えた子どもは 145 人（68.1%），まあうれしいと答えた子ども 6 人（29.6%），あまりうれしくないと答えた子ども 4 人（1.9%），うれしくないと答えた子ども 1 人（0.5%）であった．祖父母との同居の有無と，高齢者から伝承活動してもらうことについては有意差はみられなかった．しかし，高齢者から伝承活動してもらうことについて，うれしいとうれしくないの２群にわけると，うれしいと答えた子どもが 208 人（97.7%）であった（表 7）．

表 6 祖父母との同居の有無と学童保育での高齢者とのかかわり　n＝213（無回答　3 人）　単位：人（%）

		学童保育での高齢者とのかかわり		
		うれしい・まあうれしい	まあうれしくない・うれしくない	計
祖父母との同居	同居している	79（87.8）	11（12.2）	90（100）
	同居していない	109（88.6）	14（11.4）	123（100）

（p＝1.000）

表 7 祖父母との同居の有無と高齢者による伝承活動に対する気持ち　n＝213（無回答　3 人）　単位：人（%）

		高齢者による伝承活動に対する気持ち		
		うれしい・まあうれしい	まあうれしくない・うれしくない	計
祖父母との同居	同居している	89（97.8）	2（2.2）	91（100）
	同居していない	119（97.5）	3（2.5）	122（100）

（p＝1.000）

2．学童保育に通っている子どもの親の調査結果

（1）回答者の属性：

両親 10 人（5.4%），父 14 人（7.5%），母 159 人（85.5%），祖父母 1 人（0.5%），祖母 2 人（1.1%）であった．また，子どもの人数は，1 人が 28 人（15.1%），2 人が 89 人（47.8%），3 人が 57 人（30.1%），4 人以上が 11 人（5.9%），未記入 1 人（0.5%）であった．

（2）保護者の帰宅時間について

17 時以前 16 人（8.6%），17 時台 51 人（27.4%），18 時台 75 人（40.3%），19 時台 34 人（18.3%），三交替や変則 2 人（1.1%），帰宅時間はバラバラ 5 人（2.7%），いつも家にいる 1 人（0.5%），無回答 2 人（1.1%）であり，18 時以降に帰宅する保護者は 109 人（58.6%）であった．

（3）学童保育について（記述による回答）

1）学童保育の時間帯についての希望

①学童保育の終了時間の延長（44 人）

②小学校の長期休暇時（夏休み，冬休み，春休み）の学童保育の開始時間を早くして欲しい（19 人）

③警報が発令され小学校が臨時休校になった時の学童保育の保育時間（開始時間，終了時間）を見直して欲しい（5 人）

④土曜保育の開設（1 人）

現状に満足しているという意見はなく，保育時間を早くして欲しいや，保育時間の延長を希望する内容であった．

2）学童保育の内容に関する希望（記述による回答）

①小学校の長期休暇中に行事・体験を増やしてほしい（1 人）

②学童保育中に宿題をするなどの学習時間の確保（2 人）

③行事が多く参加するのが大変である（3 人）

④学童保育のスタッフの増員をしてほしい（1 人）

⑤学童保育の迎えが間に合わない時，子どもだけの下校を許可してほしい（1 人）

⑥スタッフ（指導員）の子どもへの接し方にばらつきがある（1 人）

⑦隣接の運動場で遊べるようにして欲しい（1 人）

3）学童保育を利用していて困っていること（記述による回答）

①学童保育で使用している施設が老朽化のため危険個所が多い（1 人）

②警報時に小学校が休校となると学童保育も休校になり預けられない（2 人）

③学童保育の終了時間が早く，夏休みなどの長期休暇中の学童保育の開始時間が遅い（12 人）

④指導員間での情報共有ができていないと感じる（1 人）

⑤指導員の子どもとのかかわり方にばらつきがある（2 人）

⑥学童保育で出されるおやつの内容（1 人）

⑦小学校が長期休暇中はお弁当が必要であり，毎日のお弁当作りが大変（1 人）

⑧学童保育での子ども同士のお友達関係で困っている（1 人）

⑨学童保育での役員や係などの分担が負担になる（1 人）

⑩土曜日に学童保育が休みであるため預けられない（2 人）

（4）高齢者との交流について

1）学童保育に高齢者が関わりを持つことによりどのようなことを期待するか（記述による回答）

①昔からの知恵や工夫，考え方に触れて尊敬の気持ちが生まれる（1 人）

②高齢者との関わりが「当たり前」のこととして，自然と関われるようになって欲しい（1 人）

③変に身構えず，普通に接して遊べるようになって欲しい．また，その遊びの中から身体的に弱い人達への気配りを学んで欲しい．（1 人）

④子どもの安全を守る防犯の力になって欲しい（1 人）

⑤いろいろな人がいることを知る機会となり，高齢者と関わること感じること，そのものが大事な経験になると思う．（1 人）

⑥毎日ではなく月に数回そういう日があればいい（1 人）

⑦世代を越えてのコミュニケーション（1 人）

⑧指導員の目が届いていないところで細かいいさかいや，もめ事，陰でのいじめ，危ないことをする子に目が届いて欲しいと思う．（1 人）

⑨囲碁，将棋，大工仕事，裁縫のような祖父母と同居していれば自然にみることができるような日常の一部をみせたり，教えたりして欲しい（1 人）

⑩高齢者と行動を共にすることによって，思いやりを持つようになったり，年を取ることや老いる（死を含めて）ことを身近に感じることができる．（1 人）

Ⅳ．考察

1．O 県 T 市 A,B 地区の学童保育の現状

O 県 T 市 A,B 地区の学童保育は小学 6 年生までの学童保育を行っているが，学年別利用数をみると，低学年の利用割合は 79.2%であり，約 8 割を占めていた．これは，母親の就労率は子どもが学童期になると徐々に上昇し，末子が 6 歳になると，母親の就業率は 68.7%[6] に増えるとの報告があり，小学校への就学と同時に母親が働きに出る傾向と一致する．いわゆる「小 1 の壁」といわれている現象が T 市においてもあることが推察できる．

2．子どもの高齢者とかかわることに関する意識

子どもは学童保育で高齢者とのかかわることをうれしいと回答した子どもは 188 人（87.1%）と多く，交流をうれしいと思い，期待をもっていることがわかった．

祖父母が好きと回答した子どもは 94.4%と高く，祖父母の手伝いも 7 割以上の子どもがしていた．そして，近隣の高齢者との交流は，祖父母と同居している子どもが多かった．また高齢者とのかかわりは，学童保育に来てくれるのを 39.4%の子どもが歓迎していた．また高齢者が学童保育に来ることを歓迎するか，しないかでは，祖父母との同居の有無とは無関係であった．

学童保育に通う子どもは，祖父母との関係は良好であり，近隣の高齢者に対しても好意的であることが明らかになった．

子どもにとって，地域の高齢者と関わることは，自分の祖父母と関わるのと同じような経験となり精神的に落ち着く時間になりうることが推察できた．

学童保育に通う子ども達と地域の高齢者とが遊びや地域文化の継承などを通じて，子どもの放課後の時間の充実を図ることは，小学生の共感性の発達が促進し，地域ぐるみで安心して子どもを育てられる環境作りに繋がって行く[4] と考えられた．

3. 子どもの親の高齢者とかかわることに関する意識

高齢者が学童保育に関わりを持つことに対する期待についての質問にでは，高齢者と関わることで高齢者に対する思いやりの心を培って欲しいと希望していた．

また，同居していれば見える日常的な高齢者との生活を，学童保育の中で経験させて欲しいなど，高齢者との関わりを希望する意見もあった．これらは，

子どもが普段高齢者と関わることがない，または少ないと親は感じ，子どものためには高齢者と関わる事は必要であると考えていることが推察できた．

その他の意見として，子どもを見守って欲しいと考えている親の意見があった．子どもを巻き込む犯罪や事件の増加により，子どもが安心して過ごせる場所の確保が困難になっている[1)]．O 県 T 市 A,B 地区の学童保育に通わせている親も同じように感じていると考えられる．学童保育に通う子どもの親は，子どもと高齢者との世代間交流や伝承活動，子どもの安全のための見守りを希望していることが明らかになった．また，学童保育終了後，家族が子どもを学童保育まで迎えに来るという方法を取っているため，親の就労に合わせた学童保育時間の検討を希望する声も多く，就労や社会参加を希望する女性が増加する中，子育てと仕事の両立を支援する環境づくりを一層進める必要がある[1)]との意見に合致した．

今回の調査結果と前報での報告も踏まえて，今後地域ぐるみで安心して子どもを育てる環境を実現する支援体制作りの一つとして，学童保育を利用している子どもと地域の高齢者との効果的な交流の場の創設が急がれる．

引用・参考文献

1)　平成 22 年子ども・子育て白書　内閣府　2010
2)　文部科学省・厚生労働省連名通知（案）
www.mhlw.go.jp/shingi/2007/02/dl/s0207- 4e00.pdf
3)　金田　千賀子：子どもが抱く高齢者のイメージ　医療福祉研究第 2 号 1－10 2006
4)　斎藤　哲瑯：子どもの生活の現状と課題：首都圏近郊の一都市調査の分析から(II)
川村学園女子大学研究紀要 16(1), 95-112, 2005
5)　村山　陽：高齢者との交流が子どもに及ぼす影響　社会心理学研究,25（1）,1－10,2009
6)　労働政策研究報告書 No.159
www.jil.go.jp/institute/reports/2013/documents/0159_01.pdf
7)　林谷　啓美，本庄　美香：高齢者と子どもの日常交流に関する現状とあり方　園田学園女子大学論文集 第46号 69-87,2012
8)　村山　陽：子どもたちの抱く「高齢者イメージ」　社会学研究科紀要 第 65 号 43-54,2007
9)　關戸　啓子：複合型施設における高齢者とのふれあいが幼児にもたらす教育的意義　日本家政学会誌 Vol.53 No.7 649-657,2002
10)　学校と地域でつくる学びの未来 manabi-mirai.mext.go.jp/